

## 保健・福祉情報の利用状況等に関する調査

分担研究 保健福祉情報の整備と活用に関する研究

研究協力者 恒次 欽也<sup>1</sup> 中村 敬<sup>2</sup> 中沢 明紀<sup>3</sup>  
齋藤 進<sup>4</sup> 庄司 順一<sup>4</sup>

### 要 約 :

厚生省心身障害研究のデータベース化を目指して、報告書のあり方、それを利用するための情報機器、通信機器の設置状況等を研究班に属したことがある研究者や自治体の母子保健の専門管理職などを対象にした研究者(専門家)版、保健所、保健センターなどの現場(実務家)版の2種類の調査用紙を作成し、配布、実施した。その結果、1)報告書は参照されていれば、有効な資料となっていること、2)班員はフロッピーによる提出におおむね賛成であること、3)データベース化が望まれていること、4)情報機器は整っているが、通信機器をはじめとする通信環境がとくに現場において貧困であることなどである。これらの結果に基づいて報告書並びにデータベースの作成に関わるいくつかの提案を行った。

見出し語：厚生省心身障害研究報告書 データベース 通信環境

### 1. はじめに :

厚生省は昭和46年から「厚生省心身障害研究」を発足させ(橋爪, 1985)、年度ごとに組織される各研究班は今日に至るまで、行政施策を立案するための実証的かつ有効な研究を数多く行なってきた。そして、その成果は「厚生省心身障害研究報告書」として各研究班ごとにまとめられ、毎年度刊行されている。報告書は都道府県の関係

機関、主な大学医学部や大学病院等の関係施設、ならびに主任研究者、分担研究者、研究協力者といった心身障害研究に携わった関係者に約600部ほどが配布されている。

こうした心身障害研究が関連領域の研究者や実務の専門家によりさらに発展されることや、また、都道府県、市町村の関係行政機関の政策執行や政策立案等に活かされることが必要であるこ

<sup>1</sup> 愛知教育大学

<sup>2</sup> 東京都母子保健サービスセンター

<sup>3</sup> 神奈川県藤沢保健所

<sup>4</sup> 日本総合愛育研究所

とはいうまでもない。しかし、先に述べたように本報告書は発行される部数も少なく、配布先も限られているためにせっかくの研究成果が十分に関係方面にいきわたり、活かされているとはいいがたいように思われる。したがって、本研究ではつぎのことを目的としたい。報告書の普及や活用を促すための一つの方法であるデータベース化をはかることを考えていきたい。しかし、データベース化をしても研究者や行政機関の情報機器の設置状況がこうしたデータベースを利用できるだけの環境を整えているか否かが不明である。そこで、こうした環境の整備状況を把握するための調査を実施したい。さらに、研究班に参加した研究者にはデータベース化をしやすいするために報告書の提出形式なども調査したい。この結果に基づき、今後の報告書のデータベース化や配布等を検討するための一資料としたい。

## 2. 方法：

### 2.1 調査対象

対象は平成6年度の心身障害研究に主任研究者、分担研究者、研究協力者として参加したもの、ならびに自治体の行政機関で母子保健をおもに担当している専門管理職を対象にした「研究者(専門家)版」アンケートを作成した。それとともに、おもに市町村の保健所、保健センター、病院等の現場で母子保健に携わっている医師、保健婦等を対象にした「現場(実務家)版」の二つのアンケートを作成した。

研究者(専門家)版は有効回収数245名(回収率約50%)で職種は医師76.7%、保健婦9.4%、助産婦0.4%、その他9.4%、未記入2.9%であり、そ

の職種は行政機関の部長級7.8%、課長級15.5%、大学の教授21.2%、助教授11.0%、講師12.2%、助手2.1%、病院では病院長1.2%、病院部長級2.4%、医(科)長3.7%、婦長0.8%、研究所では研究所(センター)長0.4%、研究部長1.6%、研究室長2.0%、その他12.2%であった。また、その職場は都道府県母子担当13.1%、政令市母子保健担当7.3%、特別区母子保健担当2.4%、市町村母子保健担当0.0%、その他11.4%、未記入4.5%であり、平均年齢47.8歳(SD7.5歳)、平均職歴年数19.4年(SD9.8年)、男性73.9%、女性24.1%、未記入2.0%であった。平成6年度心身障害研究では、主任研究者2.9%、分担研究者14.7%、研究協力者51.0%、平成5年度以前に参加2.9%、参加したことがない28.2%、未記入0.4%であった。

現場(実務家)版では有効回収数238名(回収率約48%)であった。職種は医師14.7%、保健婦75.2%、助産婦0.8%、看護婦1.7%、その他5.9%、未記入1.7%であり、職場は都道府県立保健所0.4%、政令市保健所0.4%、市町村保健センター71.4%、特別区保健所0.0%、国公立病院2.1%、大学病院2.9%、大学・大学院2.5%、私立病院・医院10.1%、その他7.6%、未記入2.5%である。平均年齢は39.5歳(SD10.4歳)、平均職歴年数14.6年(9.5年)、男性18.5%、女性81.1%、未記入は0.4%であった。

### 2.2 調査項目の作成

おもな項目は、

1)厚生省心身障害研究に関して、その活用、利用、データベース化、配布方法、通信の利用、報告書の提出形式等、

2)情報機器の利用状況について、職場・個人の

利用、パソコンの利用、購入予定、

3) 必要な母子保健情報、同情報の入手方法、

4) 情報通信の利用状況について

たずねた。

### 2.3 調査期間

平成7年12月から平成8年2月まで

## 3. 結果：

### 3.1 厚生省心身障害研究報告書

まず、研究者(専門家)版では報告書を文献として参照したことがあるものがたまにを含めると、84.0%と高率であった。現場(実務家)版ではたまにを含めて20.2%と低率で、報告書そのものを知らないものが47.9%と高率であった。現場では心身障害研究そのものの存在を知らしめるのがまず先決である。

また、参照したことのあるもののうち研究者(専門家)版では活用できたとするものが、85.8%と高く、できなかったものを大きく凌いだ。現場(実務家)版では72.7%で参照さえできれば相当程度活用できる報告書であることが裏付けられた。したがって、そもそも報告書の存在を知らないことが問題であろう。

研究者(専門家)版では、報告書の今後の活用のためには、研究題目の公開(67.8%)、入手しやすく(61.6%)が望まれ、さらに、インターネット等により公開(36.7%)であった。

報告書を参照したいとするものは〔現場(実務家)版のみ〕では100%にも達しており(ぜひ16.8%、内容による61.8%、入手しやすければ19.7%)、手に入りやすくなればより一層の活用が期待できる状況にある。

そして、活用のためには研究題目の公開57.6%、入手しやすく35.7%であり、まずは研究題目を容易に参照できる態勢を整える必要がある。報告書とは別に心身障害研究全般の研究題目一覧を保健所・保健センター等の現場にも配布したり、データベースで参照できるようにするなどの措置が必要であろう。現在、大手商用ネットで厚生省が情報提供しているがこれを通じて流すのも一つの方法として考えられるだろう。

報告書のデータベース化については現場(実務家)版では過去を含めて全文参照30.7%、タイトル・研究者の検索18.1%、今後のもの全文参照16.4%等、何らかの形でデータベース化を望むものが約80%いる一方で、反対はしないものの特に希望しないが19.3%もある。しかし、参照希望が上記のように100%なのでデータベース化しなくても参照できるように望んでいるものもいることに留意したい。全国の主要な公共の図書館などにも報告書を配布することが考えられる。

データベース化した際の検索方法では、研究者(専門家)版ではCD-ROMと通信の両方を望むものが多かった(55.5%)。ついで、インターネット等の通信であり、手軽と思われるCD-ROM(14.7%)よりも高かったのが印象的である。

現場(実務家)版では同様にCD-ROMと通信と両方で検索できるようにが多く(42.9%)、次にCD-ROM(26.5%)、インターネットなど(10.1%)で、研究者(専門家)版に比べて通信の比率が低い。現場ではまだ通信環境が整っていないケースが多いためである。

CD-ROM化した場合の配布では研究者(専門家)版では無料で公的機関へ(64.1%)が高い。

市販(12.7%)、無料で専門家に(10.6%)よりも高く公的機関での利用を考えているものと思われる。現場(実務家)版では無料で公的機関へ(67.6%)、無料で専門家に配布(8.4%)である。ともに公的機関への配布が望まれており、一般への配布よりも誰でもがそれぞれの職場で検索できるように整備して欲しいということなのであろう。

通信での利用では、研究者(専門家)版で厚生省がホームページを持つ(38.0%)で、つぎに厚生省の独自ネットで(22.4%)というように厚生省を通しての利用が60%を超えている。つづいて、商用ネット(12.2%)、学術情報センター(文部省管轄)(13.5%)であった。通信での公開に反対するものは少なかった(3.3%)。パーセンテージは低いものの現場(実務家)版でもほぼ同じ順序で厚生省のホームページ(26.9%)、厚生省の独自ネット(25.6%)、商用ネット、学術情報センターともに5.9%である。通信による利用も厚生省経由での情報公開が望まれているといえる。

(報告経験者のみにたずねた)報告書の提出形式では、英文タイトルを付ける(41.1%)、特に変更の必要がない(27.8%)、現在の文書様式を整える(15.8%)であった。

報告書のフロッピーディスク(FD)による提出については、任意のスタイルで良ければ(37.3%)、データベース化のために(33.5%)であった。また、文書スタイルを予め設定したFDの配布を望む(14.6%)である。データベース化を考えると、さまざまな形式の文書FDが寄せられることは困難をもたらすと予想されるので、むしろ、こうしたFDを配布することも一つの方法として考えられよう。自然科学系の学会誌ではT<sub>e</sub>X(テ

フまたはテックス)という汎用型の文書フォーマッター形式での投稿を促しているものもある。今後、同様のSGML(一太郎v6.3では出力可能)などによる提出も考えられるが、誰にでもできることが求められるので、現実的とはいえない。FDによる提出そのものに困難や無理とするものは少ない。近年の報告書が100%何らかのワープロ文書で作成されたものであることから当然のことといえる。

### 3.2 情報機器の利用状況について

#### 1) 職場での利用

研究者(専門家)版はパソコン(97.1%)、FAX(80.8%)、CD-ROMドライブ(48.2%)、ワープロ専用機(42.9%)と、FAX以上にパソコンの普及率が高い。その一方ネットワーク(LAN)(27.3%)、モデム(30.2%)と通信機器の普及はこれからといえる。現場(実務家)版では、パソコン、ワープロ専用機ともに78.6%、FAX75.6%であり、専門家に比べ若干パーセンテージが低いものかなりの程度情報機器が備わっているといえる。これに対して通信機器の普及は低く、この面での充実が今後望まれる。

パソコンのOS別の利用度では研究者(専門家)版はMAC-OSが58.0%でもっとも高く、ついでDOS/V・MS-DOS(47.3%)、WINDOWS(39.6%)であった。MAC-OSが高く、一般的なシェアとは異なるがこれは医学系にMAC-OSの普及率が高いといわれていることを反映したものである。これに対してWINDOWSが4割であるがWIN95の発売が平成7年11月下旬からであり、今後、一層の普及が予想される。他方、DOS/V・MS-DOSが50%

弱と高いのは古い機種がかなり残っていることを予想させるものである。現場(実務家)版ではDOS/V・MS-DOS(31.5%), WINDOW S(26.5%), MAC-OS(13.9%), その他(24.4%)であった。全体的に研究者(専門家)版に比べ、普及は遅れ気味であるといえる。

研究者(専門家)版でのワープロ専用機は4大メーカーといわれるNEC(文豪), 富士通(OASYS), シャープ(書院), 東芝(ルポ)がそれぞれ9%前後という普及率であった。現場(実務家)版では、研究者(専門家)版よりも普及率は高く、4大メーカーで10.1%から22.7%である。自治体によっては文書の共通化を図るために一つのワープロ専用機を推進しているところもある。しかし、将来的には多機能なパソコンのより一層の普及に伴い、徐々にワープロ専用機の役割は低下してくるだろう。むしろ、パソコン用ワープロソフトの共通化が図られるようになってくると思われる。ただし、一般的にハードやソフトは初期投資により購入されるようになってきているが、ハードの買い換えや周辺機器を充実させることや、ソフトのバージョンアップに関してはあまり積極的でないことが今後問題になってくるだろう。ハード技術の進展の速さ、ソフトの大規模化を考えると、どのように機器やソフトを更新していくかが課題となる。

パソコン用のワープロソフトは一太郎(53.9%), MACライト(28.6%), MS-WORD(21.2%)という順であり、現在の一般的なワープロソフトの売れ筋を反映しているが、最近ではパソコンにソフトが組み込まれて販売されることが一般的になってきているので、WINDOWS系

のパソコンでは一太郎やMS-WORKS, MS-WORDの利用が増えると予想される。また、MAC-OS系ではクラリスワークスが増えると思える。

## 2) 個人の利用

研究者(専門家)版の個人ではパソコン(80.4%), FAX(40.8%), ワープロ専用機(34.7%), CD-ROM(24.5%)であり、パソコンの普及率が高い。なお、職場に比べて通信機器の普及の遅れが指摘できる。現場(実務家)版ではパソコン26.9%, ワープロ専用機(62.2%)と専門家に比べてパソコンの普及率が低く、ワープロ専用機が高い。専門家(研究者)の場合はワープロだけでなく、統計計算、作図(グラフィック)、通信など多機能に利用できるパソコンの方が有用性が高いためであろう。

パソコンのOS別では研究者(専門家)版はMAC-OS(48.6%)と高く、DOS/V・MS-DOS(33.5%), WINDOWS(22.0%)であり、職場での利用とほぼ同じ結果となった。職場と同じOSの機種を選ぶ傾向による。現場(実務家)版ではWINDOWS(7.6%), DOS/V・MS-DOS(10.1%), MAC-OS(10.1%)というようにWINDOWSの比率がまだ低いのが特徴的である。旧機種が多いことを窺わせる。

研究者(専門家)版のワープロ専用機ではやはり東芝, シャープ, NEC, 富士通の普及率が高い。現場(実務家)版でもまったく同じ傾向で一般的な売れ筋がそのまま反映されている。

パソコン用のワープロソフト(研究者(専門家)版のみ)では一太郎(40.0%), MACライト(20.8%), EG-WORD(16.3%), MS-WORD

(15.9%)であり、これも職場での普及率と同じような結果であった。

### 3) 職場への今後の導入予定

研究者(専門家)版ではパソコン(42.4%)と高く、ついでネットワーク(LAN)(19.6%)、モデム(11.8%)、CD-ROM(10.6%)であった。パソコンの新機種への買い換え需要がある、とくにOSの進歩(WINDOWS v3.1からWIN95へ、漢字TALK7.0から7.5へ)に合わせて、あるいはワープロ専用機からの移行、ネットワークの導入が約20%もあることから情報端末としての利用などがあるものとみられる。CD-ROMは最新のデスクトップ型パソコンには標準装備されているのが一般的なので導入予定が少ないのであろう。現場(実務家)版ではパソコン(33.2%)、ネットワーク(10.9%)が目立つが、38.7%が導入予定はないとしており、パソコン、ワープロがひとり配置が終わったということかもしれない。

導入予定のOSとしては研究者(専門家)版はWINDOWS(20.0%)、MAC-OS(19.6%)と拮抗している。現場ではWINDOWS(14.3%)が高く、他は5%以下であった。

研究者(専門家)版のワープロ専用機の予定では4大メーカーが多い。しかし、導入予定は5.3%にすぎず、ワープロ専用機離れが進んできていることを窺わせる。単機能(最近はそうでもないが)のワープロ専用機よりも多機能のパソコンで、しかもはじめからある程度のソフトがあらかじめ付属していることが導入予定に影響を与えているものと推測できる。現場(実務家)版でもまったく同じ傾向を指摘できる。

### 4) 個人での購入予定

研究者(専門家)版ではパソコン(31.0%)、モデム(11.0%)、ネットワーク(10.6%)であった。新規だけでなく、すでにパソコンを所有していても買い換え需要が多いものと思われる。また、通信機器の導入も10%程度あり、パソコン通信やインターネットへの関心が高くなってきていることを示した。現在、大手商用ネットでは加入者が100万人を超えており、加速度的に加入者が増加していることから、通信による情報入手や情報発信(情報交換)を志す人が増えてきている現れといえる。

現場(実務家)版では今後の購入予定はパソコンで21.8%、ワープロ専用機では5%未満であり、ほとんど購入予定者はいない。今後、購入するならばパソコンという意識が定着してきているのだろう。ただし、予定なしとするものが(45.0%)もあり、個人での新機種への移行は困難であることを示した。

### 3.3 母子保健情報

研究者(専門家)版で必要な母子保健情報をたずねたところ、母子保健の最新の研究・成果(73.9%)、厚生省提供の情報(65.7%)、外国の母子保健情報(50.6%)、法令に関して(49.0%)、予防接種(47.3%)、エンゼルプラン(46.9%)、母子(親子)関係に関する情報(46.1%)、乳幼児健診(45.7%)、母子保健の社会資源(44.5%)、乳幼児の発達(43.3%)、都道府県・市町村の先駆的保健事業(42.4%)、都道府県・市町村情報(41.6%)と40%を超える要望のある情報が15選択肢中12もあることから幅広く、数多くの情報提供を求めていることがわかる。とりわけ、母子保健の最新の成果

が高く、ここに心身障害研究報告書の成果を広く公表していくことの意義があるといえよう。また、厚生省提供の情報もまた、望まれており、大手商用ネットワークにおいて厚生省が情報提供を昨年からは開始していることは時宜にあったものといえ、評価できる。あとは提供情報の質や量が問題となるだろう。

現場(実務家)版では、研究者(専門家)版とは若干順位が異なっており、得たい情報に違いがみられる。具体的には乳幼児健診の情報と乳幼児の発達とともに(72.7%)、予防接種(71.8%)、母子保健の研究・成果(68.9%)、母子(親子)関係(56.7%)、都道府県・市町村の先駆的保健事業(52.9%)、母子保健の社会資源情報(50.8%)、法令に関すること(47.9%)、厚生省提供の情報(46.6%)、エンゼルプラン(46.2%)、都道府県・市町村提供情報(42.4%)というようであった。つまり、平成9年度から実施の母子保健法の改正にともなう乳幼児健診絡みのことなど、現場に即した情報に対する需要が高い。

研究者(専門家)版では母子保健情報を得る手段としては学会誌等が(89.0%)と圧倒的で、ついで専門書(53.1%)、市販雑誌(44.5%)、新聞(40.4%)、広報・通達(36.7%)、研修会(35.9%)であり、パソコン通信はわずかに(0.8%)にすぎない。旧来からの情報ソースとほとんど変わっていないといえる。現場(実務家)版ではほぼ、パーセンテージの高低はあるものの学会誌が高く、新聞、広報・通達、専門書、市販雑誌が50%前後である点で研究者(専門家)版とあまり違いはない。その中で特徴的なのは研修会が(84.0%)と高いことである。現場ではさまざまな研修会が長・短期実

施されているが、これらが現場での重要な情報源になっていることは注目される。

### 3.4 情報通信の利用状況

研究者(専門家)版で利用している通信ではという問いに利用していないが38.0%と多い。インターネット(38.8%)、商用ネット(22.9%)、専用独自ネット(14.7%)である。インターネットが多いのは大学・研究所関係者が対象者の中に占める割合が多く、こうした職場でのインターネットの普及率が高いことによる。現場(実務家)版では利用していないが68.5%ととても高く、通信がほとんど普及していない。

研究者(専門家)版の利用している環境は職場のみが56.4%、両方が28.6%で個人は少ない(15.0%)。現場(実務家)版では職場のみが85.1%と圧倒的で個人での通信の利用が進んでいない実態を反映している。

利用内容は研究者(専門家)版の場合では、データベースの検索(40.0%)、電子メール(38.4%)、情報交換(24.1%)であり、検索やメール交換の利用が多い。現場(実務家)版ではパーセンテージは低いものの、同じようにデータベースの検索(10.9%)が多く、情報交換、電子メールがともに7.1%であった。

研究者(専門家)版の通信を利用しない理由としては環境が未整備がもっとも多い(79.4%)、現場(実務家)版でも同様で(72.2%)、職域のネットワークの整備が重要であることが分かる。

さらに、研究者(専門家)版の今後の利用の問いにも利用したいが(66.7%)、導入の予定がある(15.2%)で、需要があり、さらに、現場(実務家)版でも利用したい(53.9%)、導入の予定がある(7.

8%)で、これの供給体制の整備如何により、報告書の情報提供のあり方が規定されてくることになるだろう。

### 3.5 データベースの利用状況

研究者(専門家)版では現在利用しているものは51.4%であり、半数が利用している。また、その利用媒体はネットワークが73.9%とCD-ROMの24.1%を大きく凌いでいる。このことから大規模データベースを利用していること、おそらくは欧米で作成されたものを利用していることが推測できる。大学図書館や研究所図書室などではオンラインでのデータベース検索ができることが多いことから、手元にパソコンやネットワークがなくても実際にはデータベースを利用できているのだろう。もっと手軽にオンラインでデータベースが利用されるためにはネットワークが張りめぐらされることが望まれる。

現場(実務家)版では利用しているものは20.2%にすぎない。また、利用の形態はオンラインが多く、この間の事情は研究者(専門家)版と同じと考えて良い。

## 4. 考察:

### 4.1 報告書について

研究班員のまとめる報告書の形式については次の提案をしたい。

1) 英文タイトルをつけること。これは、国際的な情報発信ということを考えれば、報告書の要約についても英文抄録をつけるのが望ましい。しかし、現実的には報告者は多様であり、統一してというのは容易でない。少なくとも、タイトルに関しては英文タイトルもつ

けることで良いと思われる。

2) フロッピーディスク(FD)による報告書も提出すること。結果で述べたように、パソコンにしる、ワープロ専用機にしる、情報機器は普及しており、しかも、報告書として提出されている原稿はここ数年ワープロ原稿がほとんどである。したがって、その提出には困難がない。ただし、パソコンによるワープロソフトも多様であり、また、ワープロ専用機もさまざまである。これをひとつの形式のデータベースにまとめていくのは容易でない。そこで、ひとつの方法として、結果でもわかるように、パソコンもワープロ専用機も主なソフトや専用機はほぼ固定しており、何種類かのパソコン・ワープロ(5から6種類程度)、ワープロ専用機(4種類程度)を指定してもあまり問題が生じないのではないと思われる。適当なフォーマットを指定し、その指定した形式のFDを必要に応じて有償で提供することを考えてもよいのではないだろうか。最近では各種ワープロソフト間の文書を相互のワープロ用に変換するソフトが市販されているが、実際に使用してみると細かな部分でコンバートがうまくいかないことが多く、それを編集し直すことはかえって労力の無駄になることがしばしばである。本事業を軌道に乗せていくためにはどれだけ省力化、機械化、自動化できるかがポイントであり、単に労力(マンパワー)を駆使すればできるということでは問題である。なるべく少ない形式の文書へとまとめていくことが必要なのである。本研究はこうした事業



化へむけての問題点を整理し、提言することもまたひとつの大きな課題になっているといえる。

つぎに、現場(実務家)に向けては、

3) 研究タイトルを関係方面に配布して、周知をはかること。現在は班員に向けては、今年度の研究タイトルや研究者リストが配布されている。これとまったく同じものにするかどうかは別にしても、こうした資料は現場向けに配布されるのが適当である。また、このリストを厚生省が大手商用ネットで情報を流しているが、このルートに載せても良いのではないだろうか。あるいは、厚生省の独自ネットないしはインターネット上で閲覧できるようにすることも考えられる。「厚生省行政情報化推進計画」(1995)でもパソコン通信を活用した広報資料の提供システムの整備がうたわれていることからその一環として考えることができるのではないだろうか。

#### 4.2 データベース化について

4) 調査の要望にもあったようにCD-ROMと通信用と両方でデータベース化を同時に図ることが望ましいこと。CD-ROM版はその年度のすべての研究班の報告書をおさめるようにし、関係機関に配布するとともに、研究者等には実費で配布することも考える。さらに、主要な公共機関(図書館など)では誰でも検索できるようにしてもよい。通信はinternetでの提供を考えるのが現実的であろう。なお、報告書はオンラインでキーワード、タイトル、研究者による検索ができること(このために検索用専門用語シソーラスの作

成を提案したい)、全文表示ができること、全文のバイナリ・ファイル(WINDOWSとMACの主要ワープロソフト形式)をダウンロードできるようにすること、がそれぞれ必要となる。

5) 通信でのデータベース検索はユーザー登録制にすること。誰にでも情報は公開されるのが基本であるが、当面は、研究者、行政の実務者、医療現場の専門家などに登録してもらい、登録者のみに公開する方式の方が良いのではないかと思われる。結果でも述べたように厚生省を通しての情報提供が多く望まれているのでこのことから登録制が望ましい。

#### 4.3 情報機器の整備について

6) 報告書の提供の仕方はそれを受け取る側の態勢が整っているか否かにより左右される。結果でみてきたように研究者(専門家)の方は、パソコンや通信でも態勢がかなり整いつつある。しかし、対象者の多くが大学、大学病院、研究所所属であり、こうした機関では全体的に情報機器、通信機器ともに整備されている。しかし、これに比べて、現場(実務家)ではパソコンこそ普及してきているが、通信環境はほとんど整っていない。世界の趨勢がinternetによる情報交換を進めていくこと、情報発信もまた、これを通じて行っていくのがきわめて標準的なこととなってきている。したがって、こうした通信環境をいかに現場に整えていくかが、ことの成否を決定する最大の要因となる。近年では、マルチメディアパソコンと称して、CD-ROMを

組み込むことは標準のことであり、さらに、ワープロ、表計算ソフトなど多数のソフトを組み込んで販売されるようになってきている。そして、昨年末くらいからinternet接続のためのハード・ソフトを標準で組み込んだパソコンも現れてきている。結果でも述べたように、ハード、ソフトの進歩は日進月歩であり、パソコンの新製品サイクルはいまや3ヶ月から長くて6ヶ月といわれている。こうした状況では、パソコンを導入決定したときにはすでに時代遅れのパソコンを導入しかねない。また、これを補うために周辺機器としてハードを設置しようとしたり、ソフトのバージョンアップをしようとしてもこうした予算はなかなかつきにくいのが現状である。ハードやソフトを購入してはつねに遅れをとってしまう。すでに実施しているところもあると思うが、自治体単位で大規模なリース(レンタル)により、3から5年程度で更新していくような態勢をとっていく必要があるのではないだろうか。

#### 5. 今後の課題：

今年度の研究をうけて、次のことを次年度の課題として取り上げたい。

- 1) 今年度試作したCD-ROMを実際に試行してもらい、その利用アンケートを実施すること。(本報告書の斎藤班員報告を参照)
- 2) 実際に今年度分の報告書についてフロッピー・ディスクによる提出を小宮班について求め、そのデータベース化を図ること。
- 3) 同上資料について暫定的にinternet上にホ

ーム・ページを開設し、通信上の利用の可能性を探ること。

- 4) データベースを作成するのに必要な人員や、費用などを試算し、この事業を継続的にやっていく方法を検討すること。
  - 5) 今年度調査では不十分であった、情報・通信機器の利用状況の詳細について調査・検討すること。
- などである。

#### 参考文献：

1. 厚生省 1995 厚生省行政情報化推進計画 保育会(95.5)
2. 橋爪 章 1985 「心身障害研究から」心身障害研究の経緯 母子保健情報 第10号 (72)

## 附表1 保健・福祉情報の利用状況等に関するアンケート

今回、私たちは厚生省「心身障害研究」の分担研究の一つとして、「保健・福祉情報の整備と活用に関する研究」班を担当しています。そこで、「心身障害研究」研究報告書のデータベース化を視野に入れながら、この領域での情報の入手方法やその利用状況等を調査し、今後の情報提供のあり方について検討していきたいと考えています。

お忙しい中、お手数ですが、アンケートにおこたえくださるようお願いいたします。なお、アンケートの対象者としては平成6年度厚生省心身障害研究で主任研究者、分担研究者、研究協力者になられた先生方、ならびに都道府県、政令市、特別区、市町村の母子保健担当課長等の専門管理職のどなたかお一人をお願いいたします。本調査は無記名ですべて統計的に処理いたしますので個人のデータが表にできることは一切ありません。また、ご不明の点がありましたら下記の研究代表者までお問い合わせください。

はじめにあなたご自身についてお答えください。

1. 職種は (1. 医師 2. 保健婦 3. 助産婦 4. 看護婦 5. その他 (            ) )
2. 待遇は (1. 部長級 2. 課長級 3. 教授 4. 助教授 5. 講師 6. 助手 7. 病院長  
8. 病院部長職 9. 医 (科) 長 10. 婦長 11. 研究所 (センター) 長  
12. 研究 (センター) 部長 13. 研究室長 14. その他 (            ) )
3. 職場は (1. 都道府県母子担当 2. 政令市母子保健担当 3. 特別区母子保健担当  
4. 市町村母子保健担当 5. 国公立病院 6. 大学病院 7. 大学・大学院  
8. 私立病院・医院 9. その他 (            ) )
4. 年齢は \_\_\_\_\_ 歳
5. 職歴年数は約 \_\_\_\_\_ 年
6. 性別は ( 1. 男性 2. 女性 )

研究代表者 :

庄司 順一

日本総合愛育研究所

TEL : 03-3473-8340

FAX : 03-3473-8300

〒106 東京都港区南麻布5の6の8

1. 厚生省心身障害研究についておききします。

1) 平成6年度心身障害研究では

1. 主任研究者 2. 分担研究者 3. 研究協力者 4. 平成5年以前に参加した  
5. 参加したことはない 6. その他 ( )

2) 心身障害研究報告書(以下報告書)を文献として参照したことはありますか?

1. よくある 2. たまにある 3. ない 4. 知らなかった 5. その他 ( )

3) 2)で1.または2.を選んだ方へ

報告書は資料として活用できたと思いますか?

1. 充分活用した 2. まあまあ活用できた 3. あまり活用できなかった  
4. 活用できなかった 5. その他 ( )

4) 2)で3.または4.を選んだ方へ

活用できなかったのはどういう理由ですか?

1. 内容的に不十分だった  
2. タイトルと内容が不一致だった  
3. 引用文献が不足  
4. その他(具体的に: )

5) 以降の問いは全員の方へ

報告書が今後活用されるためにはどのようなことが必要だと思えますか?

(いくつでも○可)

1. 配布先が限定されているので手に入りやすくして欲しい  
2. どのような研究が行われているかわからないので研究題目などを公開して欲しい  
3. 報告書の形式が不相当なので改善して欲しい  
4. 国際化していくために研究テーマは英文化して欲しい  
5. インターネット等の通信媒体により、公開して欲しい  
6. その他(具体的に: )

6) 報告書のデータベース化についておたずねします。

a) データベース化することについて

1. 過去の報告書を含めて全文を参照できるようにして欲しい  
2. 今後提出されるものは全文を参照できるようにして欲しい  
3. タイトルや研究者だけでも検索できるようにして欲しい  
4. どのような形でもデータベース化を望む  
5. とくに希望しない  
6. 反対である  
7. その他(具体的に: )

b) データベース化した場合、その情報の検索法について

1. CD-ROM(コンパクトディスクに情報を書き込み、検索できるようにしたもの)で提供して欲しい  
2. インターネットなどの通信で検索できるようにして欲しい  
3. CD-ROMでも通信でもどちらでも検索できるようにして欲しい  
4. その他(具体的に: )

c) データベースをCD-ROM化した場合の配布について

1. 無料で公的機関へ配布して利用できるようにして欲しい
2. 市販して有料化してよい
3. 無料で専門家に配布してほしい
4. 非公開にした方がよい
5. その他（具体的に： )

d) データベースを通信で利用できるようにする場合

1. 商用ネットワーク（PC-VANなど）から利用できるようにして欲しい
2. 厚生省独自のネットを作り，そこから利用できればよい
3. 厚生省がインターネットのホームページを持ち，公開する
4. 学術情報センター（文部省管轄）のネットワークから利用できればよい
5. 民間のデータバンク会社（シンクタンク会社を含む）を通して提供する
6. 通信で公開する必要はない
7. その他（ )

7) 報告書を提出した経験のある方のみお答え下さい。

a) 報告書の提出形式について

1. 現在の文書様式をさらにきちんと整えた方がよい  
（具体的に： )

2. 英文タイトルは付けた方がよい
3. 英語によるキーワードを付けた方がよい
4. 英文による要約も必要である
5. とくに変更の必要はない
6. その他（具体的に： )

b) 報告書のフロッピーディスクによる提出について

1. 任意のスタイルでよければフロッピーディスクを提出してもよい
2. データベース化のためにフロッピーディスクも一緒に提出したほうがよい
3. 文書スタイルをあらかじめ主なワープロやワープロソフトに合わせて作成したフロッピーディスクを配布してほしい
4. フロッピーディスクでの提出は任意でよい
5. フロッピーディスクでの提出には反対である（無理である）
6. その他（ )

8) 心身障害研究ならびに報告書について，ご意見があればお書き下さい。

(以降の問いは全員の方へ)

2. 情報機器の利用状況について

1) 現在，職場で使用しているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ

(1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン)

3. マッキントッシュ
4. その他のパソコンまたはワークステーション
5. わからない)

2. ワードプロセッサ専用機

- (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )

3. イーサネット等のネットワーク (LAN)

4. パソコン通信用のモデム

5. FAX

6. 情報検索等専用の端末機

7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)

8. その他 (具体的に: )

9. なにもない

2) 職場でパーソナルコンピュータを使用している方のみお答えください。  
ワープロソフトで利用しているものは何ですか?

1. 一太郎 2. MS-WORD 3. OASYS 4. クラリス 5. MACライト
6. MS-WORKS 7. EGWORD 8. その他 ( )

3) 現在, 個人で使用されているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ

- (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
5. わからない)

2. ワードプロセッサ専用機

- (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )

3. イーサネット等のネットワーク (LAN)

4. パソコン通信用のモデム

5. FAX

6. 情報検索等専用の端末機

7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)

8. その他 (具体的に: )

9. なにもない

4) 個人でパーソナルコンピュータを使用している方のみお答えください。  
ワープロソフトで利用しているものは何ですか?

1. 一太郎 2. MS-WORD 3. OASYS 4. クラリス 5. MACライト
6. MS-WORKS 7. EGWORD 8. その他 ( )

5) 今後, 職場で導入を予定しているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ

- (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
5. わからない)

2. ワードプロセッサ専用機

- (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス  
5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )
3. インターネット等のネットワーク (LAN)
4. パソコン通信用のモデム
5. FAX
6. 情報検索等専用の端末機
7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)
8. その他 (具体的に: )
9. 導入の予定なし

6) 今後、個人で購入を予定しているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ
  - (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン  
3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション  
5. わからない)
2. ワードプロセッサ専用機
  - (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス  
5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )
3. インターネット等のネットワーク (LAN)
4. パソコン通信用のモデム
5. FAX
6. 情報検索等専用の端末機
7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)
8. その他 (具体的に: )
9. 予定なし

3. 母子保健に関してどのような情報が必要ですか? (いくつでも○可)

1. 法令に関すること 2. 母子保健の最新の研究と成果 3. 厚生省提供の情報
4. 都道府県・市町村提供の情報 5. エンゼルプランに関する最新情報
6. 乳幼児健診に関する最新情報 7. 乳幼児の発達に関する最新情報
8. 母子関係, 親子関係に関する最新情報
9. 外国の母子保健情報 (各国の具体的な母子保健に関する状況など)
10. 予防接種に関する最新情報 11. 外国での予防接種に関する情報
12. 母子保健に関する社会資源 (リソース) 情報
13. 都道府県市町村の行っている先駆的保健事業 14. 感染症情報
15. その他 ( )

4. これまで母子保健に関する情報はどのようなもので得ていましたか?

(いくつでも○可)

1. 学会誌・専門誌 2. 市販雑誌 3. 専門書 4. 研修会 5. 新聞 6. 広報・通達
7. パソコン通信 8. 私的な研究会・勉強会 9. その他 ( )

5. 母子保健に関して、今後、心身障害研究等でとりあげるとよい課題があればどのようなものですか？

(具体的に： )

#### 6. 情報通信の利用状況について

1) 現在、利用している通信としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 商用ネット (いわゆるNIFTY等のパソコン通信)
2. インターネット (職場のLANや商用のダイヤルアップサービス)
3. 独自専用ネットワーク (職場内のみ等のクローズドなネットワーク)
4. 利用していない

2) 1) で利用している方へ (1.から3.に○を付けた方)

a) 利用は個人ですか、職場ですか。

1. 個人のみ
2. 職場のみ
3. 両方

b) どのようなことに利用していますか？

1. データベースの検索
2. 情報交換
3. 電子メール
4. プログラムの収集
5. その他 ( )

3) 1) で利用していない方へ (4.に○を付けた方)

a) 利用していない理由は何ですか

1. 興味がない
2. 必要性がない
3. 環境が未整備
4. 通信でできることがわからない
5. その他 ( )

b) 今後の利用について

1. 利用したい
2. 職場で導入の予定がある
3. 利用するつもりはない
4. その他 ( )

#### 7. データベースの利用状況について

1) 現在、データベースを利用していますか。

1. 利用している

(具体的に： )

2. 利用していない

2) データベースを利用している方のみに、その媒体はどういうものですか。

1. LAN等の通信 (オンライン)
2. CD-ROM

3. その他の媒体 (具体的に： )

最後まで、ご回答くださりありがとうございました



## 附表2 保健・福祉情報の利用状況等に関するアンケート

今回、私たちは厚生省「心身障害研究」の分担研究の一つとして、「保健・福祉情報の整備と活用に関する研究」班を担当しています。そこで、「心身障害研究」研究報告書のデータベース化を視野に入れながら、この領域での情報の入手方法やその利用状況等を調査し、今後の情報提供のあり方について検討していきたいと考えています。

お忙しい中、お手数ですが、アンケートにおこたえくださるようお願いいたします。

なお、アンケートのご回答は保健所、保健センターでは母子担当保健婦さんに、病院では、担当医師、看護婦、保健婦、助産婦等のどなたかお一人をお願いいたします。本調査はすべて無記名で統計的に処理いたしますので個人のデータが表にできることは一切ありません。また、ご不明の点がありましたら下記の研究代表者までお問い合わせください。

はじめにあなたご自身についてお答えください。

1. 職種は (1. 医師 2. 保健婦 3. 助産婦 4. 看護婦 5. その他 (      ) )
2. 職場は (1. 都道府県立保健所 2. 政令市保健所 3. 市町村保健センター (役場)  
4. 特別区保健所 5. 国公立病院 6. 大学病院 7. 大学・大学院  
8. 私立病院・医院 9. その他 (      ) )
3. 年齢は \_\_\_\_\_ 歳
4. 職歴年数は約 \_\_\_\_\_ 年
5. 性別は ( 1. 男性 2. 女性 )

研究代表者：

庄司 順一

日本総合愛育研究所

TEL：03-3473-8340

FAX：03-3473-8300

〒106 東京都港区南麻布5の6の8

1. 厚生省心身障害研究のご利用についておききします。

ご存じのこととは思いますが、厚生省では昭和46年から現在まで、さまざまな心身障害研究班を組織し、保健・医療に関する研究（たとえば、少子化時代における母子保健事業、母子相互作用研究等々）などを行ってきています。そして、これらの研究成果は研究班ごとに報告書にまとめられ、厚生省はもちろん班員や全国の医学部のある大学や病院、研究所、地方の関係行政機関等に配布されています。そこでおたずねします。

1) 心身障害研究報告書（以下報告書）を資料として参照したことはありますか？

1. よくある 2. たまにある 3. ない 4. 知らなかった 5. その他（ ）

2) 1) で 1. または 2. を選んだ方へ

報告書は資料として活用できたと思いますか？

1. 充分活用した 2. まあまあ活用できた 3. あまり活用できなかった  
4. 活用できなかった 5. その他（ ）

3) 2) で 3. または 4. を選んだ方へ

活用できなかったのはどういう理由ですか？

1. 内容的に不十分だった  
2. タイトルと内容が不一致だった  
3. 引用文献が不足  
4. その他（具体的に： ）

4) 以降の問いは全員の方へ

a) 心身障害研究を参照したいと思いますか？

1. ぜひ参照したい 2. 内容によっては参照したい  
3. 入手しやすいならば参照したい 4. 参照したいとは思わない

b) 心身障害研究が一層活用されるためにはどのようなことが必要だと思えますか？

1. 配布先が限定されているので手に入りやすくして欲しい  
2. どのような研究が行われているかわからないので研究題目などを公開して欲しい  
3. 報告書の形式が不適當なので改善して欲しい  
4. 国際化していくために研究テーマなどは英文化して欲しい  
5. インターネット等の通信媒体により公開して欲しい  
6. その他（具体的に： ）

5) 報告書がデータベース化される場合についておたずねします。

a) データベース化されることについて

1. 過去の報告書を含めて全文を参照できるようにして欲しい  
2. 今後提出されるものは全文を参照できるようにして欲しい  
3. タイトルや研究者だけでも検索できるようにして欲しい  
4. どのような形でもデータベース化を望む  
5. とくに希望しない  
6. 反対である  
7. その他（具体的に： ）

b) データベース化された場合、その情報の検索法について

1. CD-ROMで提供して欲しい (コンパクトディスクに情報を書き込み、検索できるようにしたもの)
2. インターネットなどの通信で検索できるようにして欲しい
3. CD-ROMでも通信でもどちらでも検索できるようにして欲しい
4. その他 (具体的に: )

c) データベースをCD-ROM化した場合について

1. 無料で公的機関へ配布して利用できるようにして欲しい
2. 市販して有料化してよい
3. 無料で専門家に配布して欲しい
4. 非公開にした方がよい
5. その他 (具体的に: )

d) データベースを通信で利用できるようにする場合

1. 商用ネットワーク (PC-VANなど) から利用できるようにして欲しい
2. 厚生省独自のネットを作り、そこから利用できればよい
3. 厚生省がインターネットのホームページを持ち、公開する
4. 学術情報センター (文部省管轄) のネットワークから利用できればよい
5. 民間のデータバンク会社 (シンクタンク会社を含む) を通して提供する
6. 通信での公開は必要ない
7. その他 ( )

2. 情報機器の利用状況について

1) 現在、職場で使用されているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ

- (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
5. わからない)

2. ワードプロセッサ専用機

- (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )

3. インターネット等のネットワーク (LAN)

4. パソコン通信用のモデム

5. FAX

6. 情報検索等専用の端末機

7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)

8. その他 (具体的に: )

9. なにもない

2) 現在、個人で使用されているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ
  - (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
  3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
  5. わからない)
2. ワードプロセッサ専用機
  - (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
  5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )
3. インターネット等のネットワーク (LAN)
4. パソコン通信用のモデム
5. FAX
6. 情報検索等専用の端末機
7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)
8. その他 (具体的に: )
9. なにもない

3) 今後、職場で導入を予定しているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ
  - (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
  3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
  5. わからない)
2. ワードプロセッサ専用機
  - (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
  5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )
3. インターネット等のネットワーク (LAN)
4. パソコン通信用のモデム
5. FAX
6. 情報検索等専用の端末機
7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)
8. その他 (具体的に: )
9. 予定はない

4) 今後、個人で購入を予定しているものすべてに○をつけてください。

1. パーソナルコンピュータ
  - (1. WINDOWS搭載パソコン 2. DOS/VまたはMS-DOSパソコン
  3. マッキントッシュ 4. その他のパソコンまたはワークステーション
  5. わからない)
2. ワードプロセッサ専用機
  - (1. NEC文豪ミニ 2. 松下パナワード 3. シャープ書院 4. 富士通オアシス
  5. 東芝ルポ 6. CANONキャノワード 7. カシオ 8. その他 ( )
3. インターネット等のネットワーク (LAN)

4. パソコン通信用のモデム
5. FAX
6. 情報検索等専用の端末機
7. CD-ROMドライブ (データベースや辞書等CD-ROMソフト用)
8. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
9. 予定はない

3. 母子保健に関してどのような情報が必要ですか? (いくつでも○可)

1. 法令に関すること
2. 母子保健の最新の研究と成果
3. 厚生省提供の情報
4. 都道府県・市町村提供の情報
5. エンゼルプランに関する最新情報
6. 乳幼児健診に関する最新情報
7. 乳幼児の発達に関する最新情報
8. 母子関係, 親子関係に関する最新情報
9. 外国の母子保健情報 (各国の具体的な母子保健に関する状況など)
10. 予防接種に関する最新情報
11. 外国での予防接種に関する情報
12. 母子保健に関する社会資源 (リソース) 情報
13. 都道府県市町村の行っている先駆的保健事業
14. 感染症情報
15. その他 ( \_\_\_\_\_ )

4. これまで母子保健に関する情報はどのような方法で得ていましたか?  
(いくつでも○可)

1. 学会誌・専門誌
2. 市販雑誌
3. 専門書
4. 研修会
5. 新聞
6. 広報・通達
7. パソコン通信
8. 私的な研究会・勉強会
9. その他 ( \_\_\_\_\_ )

5. 母子保健に関して, 今後, 心身障害研究等でとりあげるとよい課題があればどのようなものですか?

(具体的に: \_\_\_\_\_)

6. 情報通信の利用状況について

1) 現在, 利用している通信としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 商用ネット (いわゆるNIFTY等のパソコン通信)
2. インターネット (LANや商用のダイヤルアップサービス)
3. 独自専用ネットワーク (職場内のみ等のクローズドなネットワーク)
4. 利用していない
5. わからない

2) 1) で利用している方へ (1.から3.に○を付けた方)

a) 利用は個人ですか, 職場ですか.

1. 個人のみ
2. 職場のみ
3. 両方

b) どのようなことに利用していますか？

1. データベースの検索
2. 情報交換
3. 電子メール
4. プログラムの収集
5. その他 ( )

3) 1) で利用していない方へ (4.に○を付けた方)

a) 利用していない主な理由は何ですか

1. 興味がない
2. 必要性がない
3. 環境が未整備
4. 通信でできることがわからない
5. その他 ( )

b) 今後の利用について

1. 利用したい
2. 職場で導入の予定がある
3. 利用するつもりはない
4. その他 ( )

## 7. データベースの利用状況について

1) 現在、データベースを利用していますか。

1. 利用している

(具体的に: )

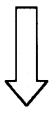
2. 利用していない

2) データベースを利用している方のみに、その媒体はどのようなものですか。

1. LAN等の通信 (オンライン)
2. CD-ROM

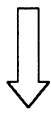
3. その他の媒体 (具体的に: )

最後まで、ご回答くださりありがとうございました



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約:

厚生省心身障害研究のデータベース化を目指して、報告書のあり方、それを利用するための情報機器、通信機器の設置状況等を研究班に属したことがある研究者や自治体の母子保健の専門管理職などを対象にした研究者(専門家)版、保健所、保健センターなどの現場(実務家)版の2種類の調査用紙を作成し、配布、実施した。その結果、1)報告書は参照されているれば、有効な資料となっていること、2)班員はフロッピーによる提出におおむね賛成であること、3)データベース化が望まれていること、4)情報機器は整っているが、通信機器をはじめとする通信環境がとくに現場において貧困であることなどである。これらの結果に基づいて報告書並びにデータベースの作成に関わるいくつかの提案を行った。